60 周年記念寄稿

日本赤十字社医療センター
医療技術部放射線課　常勤嘱託
名誉会員　鈴木利男

日本赤十字社診療放射線技師会、創立 60 周年おめでとうございます。
昭和26年技師法が制定され、その2年後の昭和28年には本赤十字技師会を発足させた先輩諸兄の熱意と決断には只々敬服する次第であります。

また、会員数も1300余名となり、日本を代表する職域団体と成長･発展できたことは、赤十字病院が国民に信頼されている証でもあります。その職場に従事する技師も、赤十字を愛し、放射線業務が好きで医療の向上に寄与しているという満足感を持っているからだと信じます。

私は平成24年3月に医療センターを定年退職して、現在再雇用制度により常勤嘱託として勤務しています。診療放射線技師としての40年間、常々心の糧としてきた他院勤務先輩技師（小林輝雄氏）の言葉を一部抜粋してご紹介したいと思います。
それは、『どのような職業でもその仕事に携わる人の適正というものがある。先ずその仕事が好きということでその仕事に興味をもつとか格好がいいとか、自分に合っているという理由などで自分自身で決めることができるが、次にその仕事を遂行する能力をもっているということは、社会環境や対象者の要望に応じて発展する職業に対応する能力を維持することで、これは研修などの生涯教育という自分自身に課せられる**掟**である。仕事の内容を他人が認めるということは、その仕事を行っている人の姿、つまり言葉や行動は**心**から発するという**心**が主体となる**人格**そのものが評価の対象となる。従ってより高い評価を受けるためには、自ら常にいつでも取り出せる応用できる能力を**心**に整理しておかなければならないし、仕事がより好きになり、仕事を愛せるようになれば自分に不足していることを学ばなければならない。その努力がまたよい評価につながるが、評価というものは、自分が求めて得られるものではなく、相手が受ける価値観によって決まるということも忘れてはならない。』という彼の言葉の一部抜粋です。
『**心・人格・掟**』などチョット古いよと言われそうですが、それが不思議と歳を重ねてくると「そうだよなぁ」と納得してしまいます。知人の言葉でしたが、皆様の**心**の片隅に置いていただけると幸いです。

最後に、貴会の益々の発展を祈念して、創立60周年のお祝いの言葉とします。